

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	少子高齢化・人口減少対策	福岡県北九州市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	教育で選ばれるまちへ！生み出せ“まなとも”の輪		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	i-カフェ戦隊、キタキュー地創's			
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2		
メンバー数（公開）	9名			
代表者（公開）	丸山真代			
メンバー（公開）	佐藤 尚美 小松 さとみ	加藤あい子 矢野 都	西嶋 亮介 塩崎 涼音	廣川 祐司 中尾 泰士

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

「大人の学び直しができるまち！北九州」

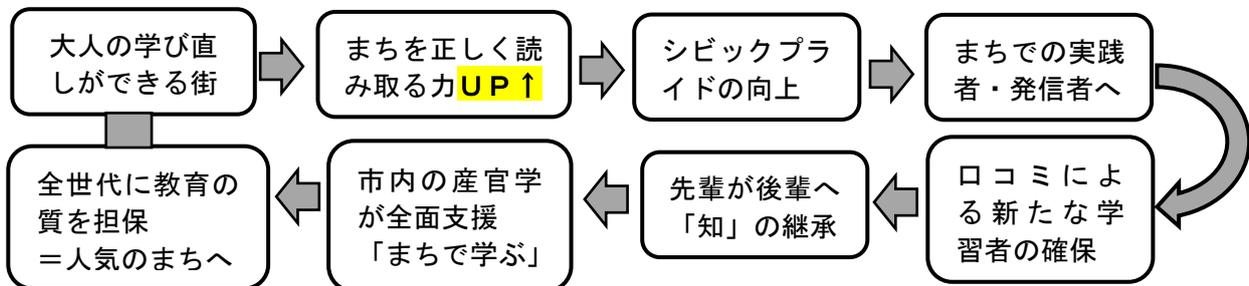
まちを正しく理解し、シビックプライドの醸成を通じて、多くの市民が発信者へ

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで…>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【大人の学び直しによる、学びの循環（学びのサイクル）を作る】



<市民が始めた「i-カフェ」という大人の学びのコミュニティづくり>

- 2019 年度北九州市立大学 新社会人教育 i-design コミュニティカレッジ 開設
- 「自分の人生を自分でデザインする」という意味で、i-design と命名。第 1 期生が卒業した（2020 年 3 月）。
- i-design コミュニティカレッジの卒業生（現市民）が、1 年間の学びの成果を活かし自主的に「大人の学び場（i-カフェ）」づくりを始めた。→2020 年度はコロナの影響で、zoom を活用しオンライン i-カフェを開始している。

<i-カフェの学びを続けていく中での、「気づき」と「変化」>

- 北九州市民は「北九州市のことを知らない」。大学で学び、北九州市の良さを改めて知った。
- 大学近郊の小中学校区は大学生との学び、一緒に活動できることによって、子どもたちも良い影響が及ぼされる。
- 大学生の地域実習のような「学び方」を通じて、地域の大人たちも、まちに効果を及ぼしたいと思ってもらえる。

教育で選ばれるまち・北九州へ

世代を超えた学び仲間

移住者：増
転出者：減

※本アイデアは「大人の学び」を得た市民たちが自分たちの意識の変化や活動の広がりなどの「実体験」をもとに発案したものである。従って、すでに実証済みのプランといえる。

①北九州市を中心とする40代以上の大人たちを中心とする

「大人の学び場」を創造する。(i-カフェ)
 →「大学で学びたい」ニーズは多いが、ハードルが高いため躊躇する。
 →「i-カフェ」のような気軽に仲間と学び会えるコミュニティを生み出す
 →ターゲット層：子育てが一段落した40代、セカンドライフを模索し始める50代、社会貢献したいアクティブシニア60代。

②「大人の学び」で知識を得る→学び仲間へアウトプットしたくなる

→学び仲間からのフィードバックが更なる学びとなる。
 (まちや社会を正しく読み取る知識と能力が身に着く)

③大人たち（市民）の「シビックプライド」が高まる

→自分たちの気づきと学びを継続的にアウトプットしたくなる。
 (他者に学びを教え、気づきを与える人が増加：学びのサイクルができる)

④SNS等を用いて、気づきと学びを投稿
 (影響力をもつインフルエンサーとなる)

Facebookへの投稿

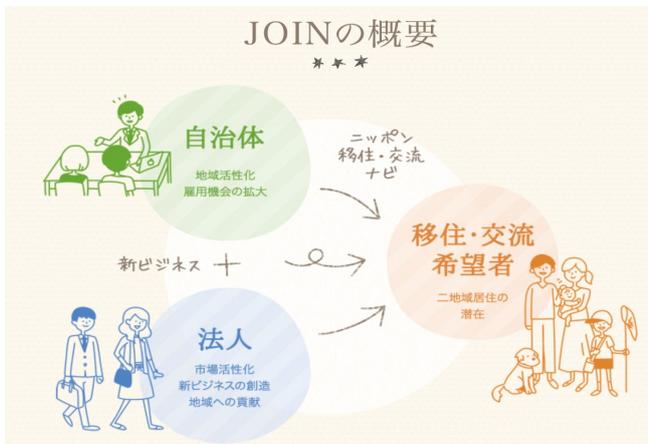


佐藤 尚美
 10月30日
 【i-カフェ 裏話 ～ZOOM初心者か、初心者講習をしているの巻～】
 仕事の合間に、私は、ちょこちょこZOOMで、【i-カフェ】の備をしています。
 今週は、2件。
 素敵なZOOMでの出来事があったので、書き留めておきます。
 まずひとつめ。
 「オトナの学び場」i-カフェでは、講師の話や聴くだけでなく、参加者の方々が、皆に教えてあげたいことを、5分程度プレゼンするコーナーを設けています。
 次回のi-カフェで、プレゼンしてくださいとの方とi-カフェスタッフとで、事前の練習会をZOOMで行いました。パワポ画面を共有する、といった操作の仕方を主に確認させていただきました。我々が、「教える側」になり、はじめてのことにチャレンジしようとしている方の背中を押して、出来るようになった喜びを共有するなんて4月は考えられなかったことでした。
 ふたつめ。
 ZOOMの操作にまだ不得手ながら果敢にも、前回のi-カフェに初参加して下さった方がいました。
 次回、より、スムーズな参加を目指してミニZOOM練習会をしました。1対1で、私の父くらいの年齢の男性参加者が、一生懸命に私の説明を聞いて下さりながらミュートのオンオフや、それをする意味をご理解いただけました！達成感！
 次回i-カフェは、11月14日(土) i-Designコミュニティカレッジの近藤塾長が、いよいよ登壇してくださいます。塾長をお招きするまでに急成長したi-カフェ。参加者の期待度も、回を重ねるごとに増していることをヒシヒシと感じながら、仲間と、学びを続けていきます。

⑤【効果】：「大人が学べる『教育のまち』」としてのブランドイメージの確立。

<社会動態をプラスにしていくために『教育』は重要なツール>

○一般社団法人 移住・交流推進機構「JOIN」より



- 子育て：教育が充実している環境
- IoTやAI、DXなどの社会変化に対応する最先端の学びが大人でも
- ロールモデルとなる地域の大人の姿を見て、若者のシビックプライドも向上→人口流出減へ

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【課題：少子高齢化・人口減少対策】

<現状分析> 『北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略』（第3次改訂版）より

- **社会動態：安定→プラスに挑戦**、自然動態：死亡数>出生数
- 高齢化率：27.2%→ピーク）2040年：37.7%〔想定〕→**政令市トップ**
- **合計特殊出生率：1.55**（全国平均：1.43）→**政令市トップクラス**
- But) 出産適齢期人口減→出生数：減→人口減少へ

- ①アクティブシニアへの対策が効果的
- ②子どもを産み育てやすい環境である

今後増加傾向にある**中高年層をターゲットに**、学び直しによるシビックプライドの向上と「**学びの循環**」をつくる

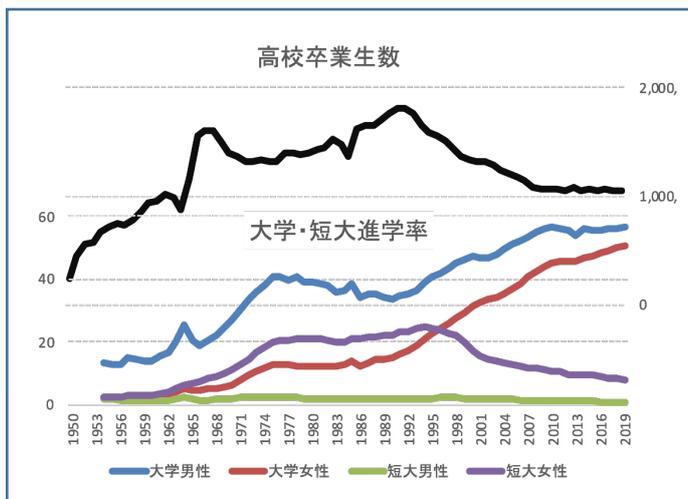
※中高年層の学び直したいニーズがある。

<北九州市の学び直しのニーズがある（データ）>

領域名	性別	40代	50代	60代	70代	計
学問と人生	男	1		2	2	5
	女		1	2	1	4
地域創生	男	1		2	1	4
	女	1	2	3	2	8
こころの科学	男	3	2	3	1	9
	女	6	16	4	1	27
計	男	5	2	7	4	18
	女	7	19	9	4	39

本調査で、参与観察およびインタビュー調査を実施した対象者数一覧（i-Design の1期生）

【女性が多い】一定以上の年齢の女性：「**大学で学んでみたかった**」が最も大きな動機。
→1990年代までは男性と女性の大学進学率には大きな差があった（図1）



変化の激しい社会の中で生きていくために、【大学で】学び直しをしたいニーズが大人たちに多い。

→**地域課題に向き合える大人（増）**

(図1)：「学校基本調査」のデータをもとに作成した、高校卒業生数(右目盛り)と大学・短大進学率(左目盛り)

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

<統計データ上は、「北九州市は住みやすいまち」である>



- ・【物価】低い
- ・【家賃】安く、広い
- ・【待機児童】0人

<出典>

総務省統計局、厚生労働省、国土交通省



統計資料から北九州市の現状を正しく読み取って、市外へ良さを発信できる人材の育成
→大学で学び直しを市が支援＝主体的な学び方の習得＝大人たちが課題解決型学習へ

<人口減少対策として>

→現状：北九州市はすでに子供を産み育てやすい環境＝出生率も高い＝社会動態をよりプラスへ

- 流入増 → 市外への「教育のまち」というブランドイメージのPR
- 流出減 → 若者（大学生・中高生）と社会人との接点を「地域で学ぶ」ことを通じて増やす

【地域で生きる「ロールモデル」としての大人像の提示】

<i-design1 期生へのインタビュー調査によるデータ>

①大人（アクティブシニア層）の方々の大学進学率の低さと「学び」のニーズ

→現在と比べると極めて低い。「大学で学びたい」「大学生になりたい」というニーズは高い(図1)

②生涯教育の広がりや欠けているターゲット層の存在

→北九州市が提供している生涯教育の場（70歳代）＝趣味的に「自分のために」学ぶ層

※「北九州市立年長者研修大学校」の受講生データより

→退職後のセカンドライフのビジョンづくりを模索する50代や60歳前半

→働きながら、または子育てがひと段落した後の「地域で暮らしていく」ための生涯教育（40代）

<1年間での i-design コミュニティカレッジでの学びと気づきによる変化>

地域を正しく理解できる知識を持つと、まちの価値を再認識し、シビックプライドが高まった。

多世代で学べるサードプレイスをつくる事ができた。

学び方を知っていくと、学びが自走する。そんな市民を増やしたい！

社会をよくするために学ぶに変化

学びを得ると地域にでて、アウトプットしたくなる。それが更なる学びに繋がる「学びのサイクル」を構築

活発なアクティブシニア層が若者たちの「ロールモデルとなって」人生100年時代のお手本になる。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

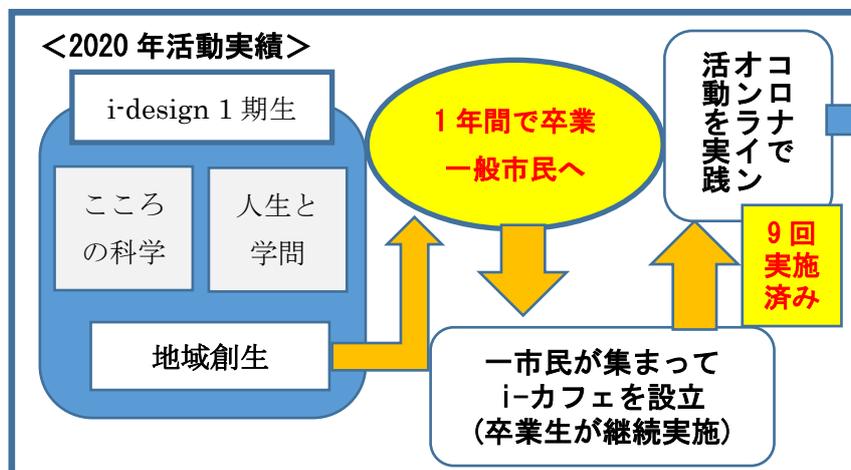
＜実施する主体＞

市民によって、自主的に組織された、**大人の学びのコミュニティである「i-カフェ」**が、北九州市立大学の i-design コミュニティカレッジや、北九州市 SDG s 推進室とともに「地域の課題解決型学習」という「学びのスタイル」を一般の市民を巻き込みつつ展開する

＜必要な資源（ヒト・モノ・カネ）＞

- ヒト：i-カフェの運営委員メンバー（コアメンバー：5名）、i-カフェの参加メンバー（30名弱）、北九州市立大学 i-design の運営に関わる教職員（5名）、大学生（6名）、
- モノ：zoom を活用したオンラインでの協同学習と、大学生とともに地域で活動し学びを活かす実践型教育とのハイブリット型で行い、その学びや成果を SNS を使って「発信」するため、パソコンやタブレット端末もしくはスマートフォンなどの電子機器類が必要となる。しかし、これらは参加者の私物によるものなので、本活動の経費とはならない。また、オンライン協同学習のため、zoom のアカウント利用料が年間約 2 万 5 千円程度かかる。
- カネ：i-カフェの毎回の参加費（1 回 500 円／人）と、北九州市立大学 i-design コミュニティカレッジの社会人大学生の授業料（1 人当たり約 10 万円／年）の一部を運営費充てる。これは、i-design 生たちの「実習活動」の場として、i-カフェを活用するため、現役 i-design 生の授業料の一部を i-カフェへ実習費として、支払われるものである。

また、一部、北九州市が推進する民間団体「SDG s クラブ」の高校生への探究学習の教育に、i-カフェメンバーが関わるため、北九州市や北九州市内の民間企業から「SDG s クラブ」に集められた寄付金の一部も本活動に充てることできる（年間 10 万円程度）。



2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

＜アイデア実現までの流れ＞		
【年】	【出来事】	【内容】
2019年	①北九州市立大学 新社会人教育 i-Design コミュニティカレッジ開講 ②地域創生領域の学生が、1年間の学びの成果として「i-カフェ」を生み出す	①「学問と人生」「こころの科学」「地域創生」の3領域で開講。「人生100年時代、自分の人生を自分でデザインし直すための社会人大学」として開設された。 ②領域間の繋がりや交流が無いと、自分たちで「新たな大人の学び場」を創造した。※他者から学ぶ力の修得
2020年	③「オンライン i-カフェ@zoom」を開始 ※「with コロナ社会」への対応 ④「i-カフェ」に大学教職員を巻き込む ⑤i-designの2期生（2020年度はコロナのため未入学）合格者も「i-カフェ」の参加者として巻き込む <↓地元FM局での発表>	③コロナ禍で「i-カフェ」の実施が当面凍結になる中、できることを模索し、zoomで実施。（zoomを使用できない高齢者には、仲間同士で教えあった。） ④i-designの卒業生同士で開催していたi-カフェに、大学教員・職員を参加者として巻き込み、質の高い学びの場となる。 ⑤1期生が自分たちの学びを発信し、それに影響を受けた2期生たちが集まってきた（1期生のインフルエンサーとして、北九州地域近辺に影響を与えている）。 <自分の人生をまとめた「作品集」を発表↓>
		
2021年	⑥大学へ入学するには、ハードルが高いが興味はある一般市民を「i-カフェ」に参加して頂く ⑦i-Design2期生の実習先として「i-カフェ」が活用され、1期生+2期生へ運営をしていく形とする。 ⑧i-カフェメンバーが、北九市内の3つの高校の「総合的な探究の時間」のアテンドをする（※現時点で調整済）	⑥「市民→i-カフェ→i-Design→地域活動→更なる仲間」という循環を構築している。 ⑦地域創生領域で学ぶ「プロジェクトマネジメント」「PDCAサイクルの回し方」「チームビルディング」を実践しながら「学ぶ」場となる。 ⑧「大人」だけでなく、大学生・高校生・高校教員・企業との共同企画の実施。すでに2021年度にどのように実施するか話し合いを進めている。（テーマは防災教育。）
2022年	⑨北九州市の政策の担い手として、「i-カフェ」の「学ぶ大人たち」が地域で活躍する。	⑨北九州市「SDGs推進室（高校の防災教育のアテンド）」「危機管理室（地区防災会議のファシリテート）」「先進的介護システム推進室（介護にAIの活用・i-カフェメンバーに介護士がいるため）」などの、「北九州市の政策」をi-カフェに参加する「一市民」が実施していく。

変化する課題に学びながら立ち向かう組織